

最近、夜の灯を眩しく感じるが増えたように思います。特に車を運転している時に、対向車のヘッドライトに対して眩しすぎるなど思ってしまう。みなさんの中にも同じように感じる方がいらっしゃるのではないのでしょうか。インターネット上にも、同様の書き込みを散見することができます。

自動車のヘッドライトは、40年程前までは家庭用の白熱電球と同じタングステン電球が使われており、1980年代に入ってからハロゲン球が

使用され始めたようです。その頃は今のように特別に眩しく感じることはなかったように思います。

90年代に入ってディスチャージヘッドランプ（HID）が開発され、2000年代に入り省電力・長寿命がエコな時代に合い普及が進んだようです。当時は、青白い光を目新しく感じた記憶があります。そして近年になってLEDヘッドライトが開発され、更に省電力・長寿命が進み、明るさ不足も解消されて人気が出たようです。



## 医界サロン

# 眩しすぎる灯に思うこと

広報委員 村本 大輔

このHIDやLEDのライトが増えた頃から対向車のライトがどうにもならないものかと感じるようになってきました。

信号待ちの間の対向車やバックミラーに映る後続車のヘッドライトに眩惑され、一瞬視界をなくしてしまうこともあります。正直なところ、危ないなと思うとともに、どうしてこんなに眩しいのだと腹立たしく思うことさえあります。近頃は自転車のライトもLEDが使われ始めたようで、右側通行で走ってくる自転車のライトで眩惑されることもあります。

LEDやHIDのライトは、省エネで発熱することもなくハイブリッドカーに向いているようですし、長寿命で交換の回数が減るなどメリットもあります。装着する側から考えればとても良い商品だとは思いますが、対向車の側から言わせて頂ければ、眩しすぎるというデメリットが際立ってしまいます。メーカーの純正品は上への光の広がりをカットしているらしいのです

が、社外品でハロゲンランプから交換するタイプの物は、もともとの発光部と社外品の発光部にズレが生じるため、光が上方向にも広がり眩惑の原因となっているようです。LEDのライトは交換も容易なので、購入後にリーズナブルな社外品へ交換されることが多いのかもしれませんが、2年前から車検におけるヘッドライトの検査基準が変更になりましたが、効果を上げているようには思えません。更なる法規制や取り締まりがあってもいいのではないかと思います、車を運転する毎日です。

街灯もLED化が進んでいます。拙宅の周りも最近LEDになりました。夏休み、子どもが宿題で星空観察をしたのですが、街灯が明るすぎてよく見えなかったとぼやいていました。家の中は、蛍光灯に代わりダウンライトや間接照明が増え、その場に適した明るさが取り入れられていますが、外の灯も眩しすぎない必要十分なものになればと思います。